

魔法の宿題 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名:尾崎和行 所属:青森県八戸市立桔梗野小学校 記録日:平成28年2月26日

キーワード: 知的障害 読み・書き 写真 文章表現

【対象児の情報】

- ・学年 小学5年生
- ・障害名 知的障害（軽度）
- ・障害と困難の内容

明るく、素直な性格で、担任に対しても昨日の出来事やニュースなど思いついたことを話しかけてくる。とても話好きなのだが、それを書き言葉で表すように促されると、言葉が浮かばなくなるようで、「なんて書けばいいの。」と、書き方（文章表現）を求めることが多い。

絵画や書字、手指を用いた作業などに苦手意識が強い。視覚で得た情報を再現するのが苦手なのか、特に絵や図形、漢字を正確に書く（描く）ことが困難で、やり直しの回数が増えると、手に異常に力が入り「手が震える」「手が痛い」などのストレスと思われる身体反応が出ることもある。

話し言葉は豊富で、感受性も豊かなので、デジタルフォトと、テキスト入力を効果的に活用して、「感じたことをそのまま文章に残す」ことができれば、作文に対しても意欲的に取り組めるようになると思われる。

【活動目的】

・当初のねらい

- 見たことや体験したこと、感じたことを写真と文で表現することができる。
 - ①作物の生長の様子を写真と文で記録する。
 - ②学校・学級行事を報告するスライドを作り、発表する。

・実施期間

- ①は平成27年5月中旬から8月下旬 ②は平成27年8月下旬から平成28年1月下旬

・実施者

- 八戸市立桔梗野小学校 尾崎和行（特別支援学級担任）

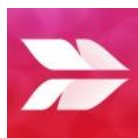
・実施者と対象児の関係

- 学級担任

【活動内容と対象児の変化】

① 作物の成長を記録する活動

使用アプリ : デフォルトのカメラ機能と写真管理アプリ 注釈アプリ Skitch



・対象児の事前の状況

○iPad の利用には、関心を持っていたので、基本的な操作については比較的早く習得することができた。

○作物の観察に入る前に、学校周辺の春の草花を撮影し、コメントを入れる学習をした。次々と写真を撮り思いついた言葉を打ち込んでいた。多くは、「チューリップの花。きれいだね」「プールに咲いたたんぽぽ。」など、見たことをストレートに表現するものであったが、中にはタンポポの群生に「タンポポが遊んでる。」、梅の木の周りに咲いたタンポポに「梅の花、タンポポと仲良し。」など、抒情的な表現をしていたものもあった。感受性は豊かなほうであり、あとはそれを表現する言葉を見つける支援があればよいということが分かった。

・活動の具体的内容

○5月上旬に畑を耕し、苗植え作業を行いその時のから写真記録をスタートさせた。

○発芽までは1週間に1度のペースで、発芽後、結実、収穫までは2週間に1～2度のペースで観察し、写真に収めながら、同時に感じたことや気づいたことを書き込ませるようにした。

・対象児の事後の変化

○写真の撮り方について

取り組み当初は、畑のどの部分を撮影すればよいかといった視点を定めることができず、指導者が撮影ポイントを教えることが多かった。しかしこの点については、作物の生長に伴い変化が顕著になっていったことで、自分から「この様子を撮っておこう。」と言いながら、撮影できるようになってきた。

撮影の際、被写体となる作物が画面の端に一部しか写ってなかったり、写ってはいても一部が画面から外れたりしていても、「ちゃんと写っています。」と、気にしない様子であった。指導者はその都度「写したいものをできるだけ、画面の中央に持ってくるように、カメラの向け方を工夫してみよう。」という助言をしてきた。作物の葉が茂ってくると、カメラを通したとき、自分が撮りたい部分がわかりにくくなり苦勞していたが、何度も撮



上：6月。写したいものを中心にする意識が弱い

下：8月。写したいものを中心において撮影することができるようになった。

り直して納得のいく写真を撮ろうとする姿勢が多くなった。

○コメントの内容について

種苗の植え付けや発芽直後は、どちらかというと説明的なコメントを入れることが多かったが、それでも「野菜が育つといいね。」や「元気に育ってください。」といった、作物に対する思いを表現する部分も見られた。この5、6月のあたりは、写真を撮ってから教室に戻り、指導者と一緒に写真を見ながら会話し、コメントを考え入力していた。

作物の生長に伴い、収穫に対する期待感が高まるにつれて、コメントにも変化がみられるようになった。まず、これまで1文で終わっていたものが2文で表現するようになり、始めの文で大まかに説明し、後の文でより詳しく、感じたことを加えた表現になってきた。また、「ジャガイモの花が咲きました。紫色の小さな可愛い花が咲きました。」に対し「メロンの花が咲きません。花が咲かないので心配です。」と、対比的にとらえて表現することもあった。このころになると、教室に戻って会話しながら文を考えるのではなく、写真を撮ったその場で、自力でコメントを入れるようになってきた。被写体を決めた時からどう表現するかも決めていたかのような様子であった。



右：花が咲いたことについて、ジャガイモとメロンを対比的に表現

下：畑のベンチで、コメント入れに励む対象児

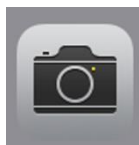


② 学校・学級の行事を報告する資料を作り、写真と文で記録する。

・使用アプリ



Keynote



デフォルトのカメラ機能

・対象児の事前の状況

夏休み明けに、協力学級の友達の「自由研究工作」作品を写真に撮り、すべてにコメントを入れるという活動を行った。書き込む内容は「〇〇さんの××です」で終わっていたが、指導者から「この作品で工夫してるなと思ったことや、面白いなと思ったこととか、何でもいいからほめるところを見つけてごらん。」と言われ、写真を撮りながら、必死に言葉、表現を考え、指導者からの支援を若干受けながらも「〇〇が××で、かわいいですね。」「〇〇がかっこいいです。」「あざやかな色できれいです。」といった、形容詞を使って表現するようになってきた。また、「〇〇みたいで・・・」と、比喻表現も現れるようになり、直感的に感じたことを、経験をもとに表現することができるようになってきた。



コメント「〇〇さんは瓶の中のマリモとお金が消える貯金箱を作りました。お金が消えるなんて魔法みたいだね。」

・活動の具体的内容

生活単元学習を中心に学習したことや、体験したことをスライドショーにまとめ展示発表する活動に、継続的に取り組んだ。作成したスライドは以下の通り。

タイトル	製作日	概要
メロンジャムの作り方	9月9日	生活単元学習。メロンジャムを作る手順を紹介するスライド。
八戸三社大祭	9月14日	夏休みに撮った写真をもとに祭りの山車を紹介するスライド。
前期を振り返って	9月18日	前期のふりかえりを、写真と作文で綴ったスライド。
種差海岸に行ったよ	9月29日	電車の時刻調べなどを通して実施した校外学習の体験を紹介するスライド。
九九の模様	10月22日	算数の学習で取り組んだ、九九の秘密について紹介するスライド。
ふれあい宿泊学習会の思い出	11月12日	市内支援学級合同の宿泊学習で出会った友達を紹介するスライド。

東京モーターショー	11月17日	父親と見に行った東京モーターショーで撮った大量の写真を使って、車を紹介するスライド。
南部せんべいを作ろう	11月30日	南部せんべいの歴史や、店舗数、食べ方、作り方など、調べ学習の成果をまとめたスライド。
東京モーターショー2	12月10日	東京モーターショーの紹介スライド第2弾。

作成したスライドは、プリントアウトして教室前の廊下に掲示し、友達や教員に見てもらった。また、市内特別支援学級合同の作品展「ふれあい作品展」(H28/1/22～24)にも出品し、来場した市民の方々にも手に取って見てもらうことができた。「南部せんべいを作ろう」は、協力学級との交流学習「郷土料理を作ろう～せんべい汁～」(総合的な学習の時間)の第1時で発表する機会を得た。発表のための原稿を別に作るなど、「伝える」ことを意識して取り組むことができた。

・対象児の事後の変化

写真やテキストの挿入といった操作を予想以上に早く習得し、自分一人で取り組もうとする姿勢が随所に見られた。文章を考える際も「先生黙ってて！自分で作ってみるから。」と自分の力で完成させたいという意欲が見られるようになった。

スライド作品を廊下に掲示したことで、通りがかりの教師や友達から「すごいね」「この車かっこいいね。」「iPadで作ったの？上手にまとめたね。」などと称賛の声をかけられるようになり、対象児の意欲につながった。とりわけ東京モーターショーのスライドは評判が良く、第2弾を「自分で作ってくる！」と、休日に自宅で父親と作成することができた。

「東京モーターショー」に関しては、写真の数が多いことと、対象児の興味を中心に車の名前とフォルムであることから、「車の紹介」的なスライドになっているが、中には、自分が知っている情報、例えば「ラリーの車です」「小さいSUVです。」といった、写真だけではわからないことも補足的に説明しているものもあった。「これは伝えたい」と思ったことを文章化しようとする姿勢が出てきた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

写真を手掛かりにすることで、何を伝えることができるかを考えて文章を作ることができるようになり、意欲的に作文に取り組めるようになったのではないかと。

・エビデンス(具体的数値など)

写真に言葉を添えるという形で文章作りを進めていった結果、前述の対象児の変化にあるように、まず自分で言葉(文章)を考えて、とりあえず書いて(入力して)みるという姿勢が多くなった。それが、回数を経るに従い、写真に写っているものをそのまま文字に置

き換えるというものから、自分の思いを書き加えたり、写真だけでは伝わらない補足的な説明を書き加えたりといったものが増えてきた。

4月から6月の、コメント入り写真（主に畑の観察）の中で、自分の思いや補足的な説明があるコメントは、34%だったものが、7～9月の写真では71%になっている。

後期に取り組んだスライドショー作りのほうでは、「種差海岸に行ったよ」「東京モーターショー」「八戸三社大祭」と



上：5月の写真。作物の名前のみを書き込んでいる。

下：7月の写真。形容詞を使って感じたことを書き込んでいる。

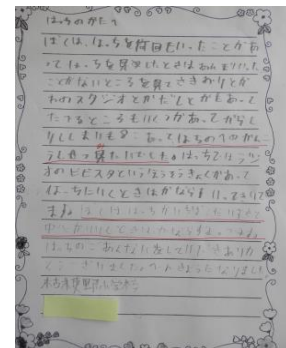
いった、自分の体験を報告するスライドでは、補足的説明など、工夫が見られる文章が約50%あった。

スライドショーは、そのテーマによってすべてのスライドに補足説明や感想が必要というわけではないが、どのスライドショーも、全体として「何を伝えようとしているか」が、見た人に伝わるような作品になっていた。



・エピソード(画像などを含めて)

今年度の取り組みを通じて、対象児はこれまで苦手意識を持っていた「作文を書く」ということへの抵抗が、軽減されてきたのではないかと考えている。このことは、写真を使わない、日常の作文学習にもあらわれ、読み手を意識した表現を工夫するようになってきている。一例として、校外学習の見学先の方へのお礼状、「はっち（八戸市のポータル施設）の方へ」の手紙では、「楽しかったです。」



「うれしかったです。」で終わらず、感じたことを比喻で表現したり、相手の意図をくみ取った表現をしたりといった工夫が見られる。また、この手紙は校正後にパソコンで清書することを前提に書いた。そのた

赤線部：「はちのへのかんこうせつつみたいでした。」「ぼくは、はっちがいちばんだいすきで、中心がいにいくときはかならずよってます。」

め、文字の丁寧さや漢字の誤字を気にせずに、文章を考えることに集中して書くことができた。もともと、感受性が豊かで、素直な子どもであるだけに、思いついた言葉を忘れないうちに文章化することができたのがよかったのかもしれない。

また、スライドを多くの人に見てもらうことで、対象児の、活動に対する意欲が高まり、自信にもつながっていった。協力学級との交流学习で取り組んだ総合的な学習「八戸再発見」で、



総合学習で作ったポスター発表の様子（左）と、作成したポスター（右）



班の仲間と調べたことをまとめ、ポスター発表するという活動に取り組んだが、そこでもスライドづくりの経験を生かして、写真を切り貼りしたり、ネット上の説明文を参考にし、発表資料を作ったりして、協力学級の友達と同じように取り組むことができた。そして、この発表の経験が、そのあとの「南部せんべい」の学習のプレゼンテーションへとつながっていった。



「南部せんべい」のプレゼンテーション。少々照れながらも、自信をもって発表することができた。

文章を自分で考えようとする姿勢が出てきてはいるが、主語述語の関係や、助詞、接続詞の使い方などはまだ支援が必要である。

しかし、写真を手掛かりに、文章を考えることに慣れてきたことや、テキスト入力で誤字や字形を気にせずかけること、学習のまとめを keynote でおこない、スライドにして記録することの楽しさを覚えたことで、自分の考えを文に綴ることに意欲的になってきた。今回の取り組みが、対象児にとって効果的であったことがうかがえる。

来年度も引き続き、スライドショーを作る学習に取り組み、作文の機会を多く持つことで、文章表現の力がより確かなものになっていくと考えている。